

わたしたちの地域学習

沖縄県宜野座高

《3》



沖縄本島北部の東海岸にあり、米軍普天間飛行場の移設候補地、名護市辺野古の南西約10kmに位置する。国内の米軍施設は国土の0.6%の沖縄に74%が集中し、本島では面積の18%を占める。軍用機の事故や離着陸時の騒音、軍関係者の犯罪なども重なり、反対運動や、県外の応分負担を求める声も強い。

国内の観光地で高い人気を誇る沖縄も、太平洋戦争の地上戦で多大な犠牲を払った歴史がある。敗戦後の米軍統治に端を発する基地問題は現在進行形の政治課題だ。基地や平和の学びに新聞はどう活用されるのか、高校の教室をのぞいた。(那須政治)

基地 感情を言葉に

本島北部、宜野座村の県立宜野座高校。二年一組の社会科学の授業で、机の上に地元紙「琉球新報」「沖縄タイムス」が山積みされていた。全学年の社会科学で冒頭十分間に新聞を題材に議論する学習に取り組み、この日は一時限を使った拡大版だ。

宮城通就教諭(左)が呼び掛けた。生徒らはグループごとに担当の漢字を決め、新聞を大きく広げた。見頃を迎えたヒマワリなどほっこりする記事を探す人もいれば、米軍の新型輸送機「オスプレイ」落下の記事に向き合う人もいた。

普天間飛行場の移設候補地・名護市辺野古沖に埋め立て用ブロックが投入された記事を読んだ城間連君は「なぜ移

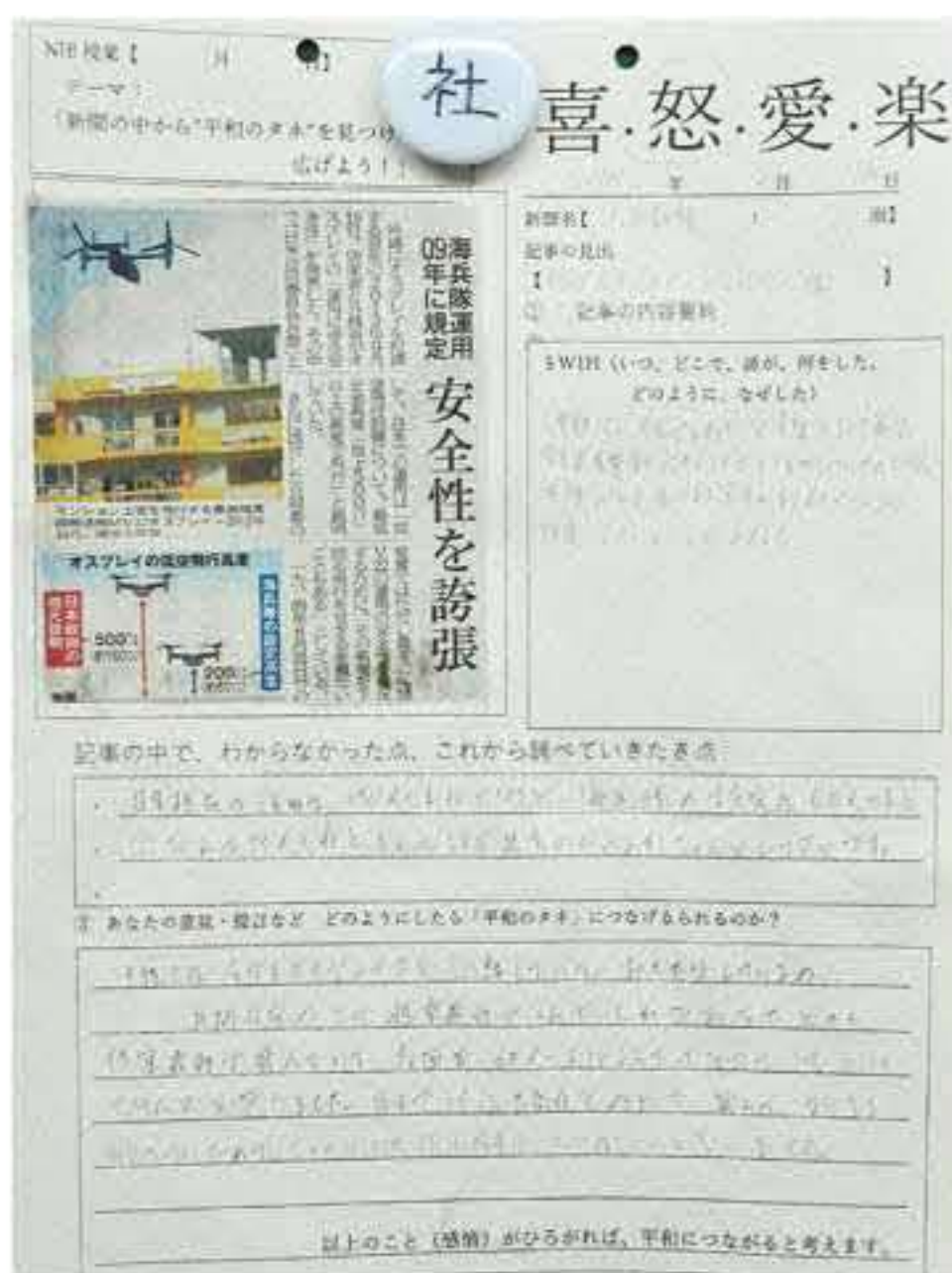
平和愛をのこす育い

まな話題が選ばれたが、怒は米軍関連の内容に集中した。喜久山さん(左)は、昨年の女性殺害事件で起訴された米軍属の男が「彼女(被害女性)が悪かった」と責任転嫁ともとれる発言をしたとの報道を選択。「たまたま(被告の)近くにいただけの女性が、な

設先が沖縄なのか」。沖縄が基地を押し付けられているという実感もにじんだ。ワークシートのポイント



平和教育に新聞を活用する宮城通就教諭(左から2人目)＝沖縄県宜野座村の宜野座高校で



授業で使用したワークシート。結論部分は最初から印字されていた

宮城通就教諭は、さまざま考え方や価値観を尊重することを生徒に伝えるとともに、「戦争の名残がある沖縄に生きる人間だからこそ、日々の報道からも、平和を愛する寛容な心を育んでほしい」と力を込めた。

日常的に米軍施設を目にする沖縄。地元の新聞二紙は基地反対の論を強め、辺野古や北部の東村で進む米軍施設建設への反対運動も熱心に追う。

前出の喜久山さんは、戦争の芽を摘むことが授業の意図だと理解し「憎むことでは何も生まれません。さまざま人の傷ついた心を包み込める広い心を持つことが、平和につながると思います」と話した。城間君も「この思いや状況を本土の人にも知ってほしい」と説明した。

教諭はここで、二つの言葉を引用した。平和はほほ笑みから始まる(ノーベル平和賞受賞者マザー・テレサ) 戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない(ユネスコ憲章前文) そして「悲しみ、不安、恐れ、怒りではなく、平和を望む気持ちを行動の源にしてほしい」と説明した。

「足で稼ぐ」が記者の基本

新聞記者は、事故や事件の取材現場に行く時、自動車を使ったことが多くあります。しかも、途中で交通渋滞に巻き込まれ、現場周辺が交通規制されて車が乗り入れできなくなったりする場合があります。で、徒歩も大切な手段です。

高速道路の事故の取材では、現場の反対車線を走る自動車に乗り、後部座席から写真を撮ることもあります。いろんな手を使い、現場に行く姿勢が必要です。



新聞とわたし

テレビと違い、見出しで読みたいのが把握できるのが新聞の良さ。毎朝、見出しをサッと読み、帰ってから興味のある記事に目を通していきます。社会の授業では毎回、時事問題の小テストがあります。ほとんど分かります。

中学生になって世界の



水村優由香さん

海外のニュースにも興味

ニュースも読むようになって、気になる記事のスクラップを始めました。最近では金正男氏の殺害事件。次に北朝鮮で何かあった時、きつとつながると思います。夏休みの宿題では、知らないことの多かったノルウェーについて新聞形式でまとめました。石油が採れる自国の利益を守るため、欧州連合(EU)に加盟していないそうです。そう(いつ)かと納得しました。(長野県駒ヶ根市東中一年)

NIE全国大会名古屋大会は、8月3、4日に名古屋市中で開かれます。

